『白門』に学ぶ 外国人留学生

アメリカ クリス・マイン（Chris Main）さん

＝総合政策学部3年

中央大学には500人を超す外国人留学生が学んでいる。その国・地域はアジアを中心に約30を数え、国際色にあふれている。留学の目的は様々だが、それぞれが向学心に燃え、キャンパスライフを楽しんでいる。日本の学生との違いは、など、お国柄の表情を織り交ぜながら、『白門』の留学生を紹介する。

米アリゾナ州出身の24歳 日本語メールはちょっと苦手

クリス・マインさんは、アメリカ・アリゾナ州出身の24歳。アメリカ人の父親と、フィリピン人の母親を持つハーフのアメリカ人だ。

最初に取材のアポイントを取るために、日本語でクリスさんに何通かメールをしたが待てども返事がなかった。メールアドレスが違っていたのかと思いつつ、次に電話をしてみた。今度は連絡がつき、電話口から流暢な日本語がかえってきた。取材依頼も快諾してくれた。

クリスさんは、日本語の文字はやや苦手なようだ。でも日本語の会話は、何の支障もない。もちろん初対面だったが、取材はいろいろな話に広がり、弾んだ。

先生になる志しに疑問を 世界各国を巡る旅に出る

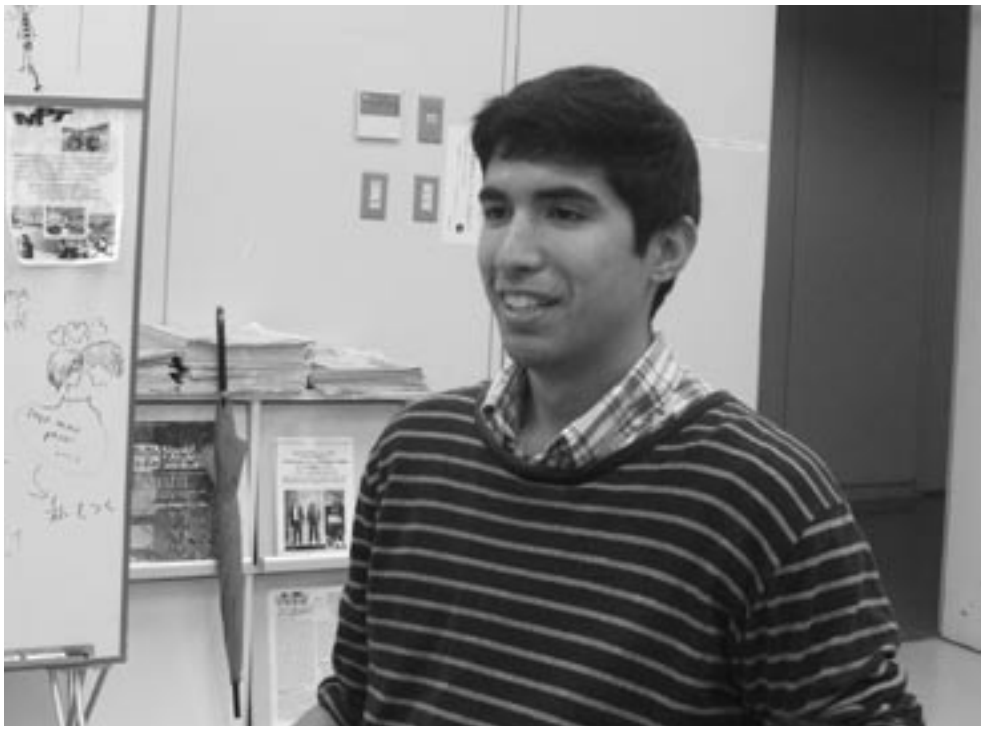
日本、それも中央大学に留学することになった経緯について尋ねると、次から次にいろいろな話が飛び出してきた。もともとは「アリゾナ大学で教育学を学んでいて、先生になることを志していた」のだという。だが、「先生になるという目標が、自分に合っているのか分からなくなってきた」と目指す進路に疑問を感じるようになってきた。

加えて、「アメリカにいたくない。生まれ育ったアリゾナという土地から出てみたい」という思いが募っていった。アジアへ目を向けるようになったのは、そんな時だった。

クリスさんは、思い切ってアリゾナ大学を2年間休学することにした。そして世界各国をめぐる旅に発った。様々な国へ旅行し、日本にも3か月

クリス・マインさん

間滞在した。滞日中は、英会話教室を営むカナダ人の家に住まわせてもらい、「英会話を教えて収入を得た」という。「日本での生活は本当に楽しかったよ」と当時を振り返る。



世界を舞台に仕事をしたいと語るクリスさん

様々な国に触れ、留学決意 交換留学で国際経済を学ぶ

クリスさんは、いったん日本を離れたが、母親の母国であるフィリピンや韓国などいろいろな国々をめぐって人と出会い、それぞれの国柄や文化に触れるうちに、「留学して外国で学びたいと思うようになった」という。そこで交換留学先に選んだのが日本の中央大学だった。中大では、国際経済を勉強している。

「人との会話やコミュニケーションが何より好きだ」というクリスさん。中央大学の総合政策学部は、「アジアやヨーロッパ、アメリカなど世界の人と出会える楽しい場所です」と友人の輪を広げてキャンパスライフを楽しんでいる。

世界を舞台にした仕事を夢見る 日本のサラリーマンはきつそう

「両親は日本に対して危険な国というイメージを持っているらしくて心配もしていた。でも、留学に関しては応援してくれている。3歳上のお姉さんともメールでやりとりをしている」というクリスさんは、日本にいても家族のことは忘れない。

「将来の夢は？」と尋ねると、「まだ具体的には決まってないけど、せっかく世界に出たんだから、それを活かして世界を舞台にした仕事がしたい」と夢見る。

留学した日本で先々、仕事をすることについては、「日本のサラリーマンは仕事がきつそうで、楽しくなさそう。だから嫌です」とはっきりした答えが返ってきた。

（学生記者　石川可南子＝法学部2年）